

第6回 伊丹市総合計画審議会 議事概要

開催日時	令和2年1月8日(水) 17時00分～19時00分
開催場所	伊丹市役所議会棟3階 第2委員会室
出席者	松尾委員、芝野委員、直田委員、審良委員、川村委員、小林委員、坂本委員 徐委員、辻委員、中尾委員、西濱委員、宮脇委員、吉澤委員、吉村委員 渡瀬委員、上田委員、木村委員、嶋本委員、鈴木委員
欠席者	加賀委員、植木委員、榎木委員、寺坂委員、森委員
事務局	総合政策部長・政策室長 他2名
傍聴者	1名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 伊丹市総合計画審議会部会からの報告 (2) 伊丹市総合計画基本構想・基本計画(素案)の検討 (3) 伊丹創生総合戦略の総合計画への統合 3. その他 4. 閉会
資料	資料① 伊丹市総合計画審議 開催経過と意見等の概要 資料② 伊丹市総合計画[基本構想・基本計画](素案) 資料②[別冊] 伊丹市総合計画 基本計画(素案) 資料③ 総合計画への伊丹創生総合戦略の統合について

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音の確認 ・資料の確認 ・委員総数 24 名のうち 19 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・会議録の署名委員が川村委員と小林委員であることを確認。 ・傍聴が 1 名であることを確認。
	<p>2 議題(1) 伊丹市総合計画審議会部会からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月 2 日の全体会以降、部会が 3 回開催され、検討を重ねていただいた。各部会より報告をお願いします。
副会長	(資料 1 に沿って第 1 部会の説明)
委員	(資料 1 に沿って第 2 部会の説明)
委員	・私は第 2 部会に所属していたが、部会の範囲を超えた議論があった。第 1 部会でも同様に、全体的な視点からも議論を重ねていただいた。
副会長	・担い手や人づくり、ネットワーク化は、どちらの部会でも議論されている。
委員	・南海トラフ地震の発生が心配だ。伊丹は南北に傾斜があり、海拔 6.5m 前後の地点もある。津波が発生した際には危険な地域なので、文章中に南海トラフ地震による津波の影響があまりないと言及することは控えていただきたい。
事務局	・武庫川、猪名川の津波被害についても記載してほしい。
事務局	・これまでの審議会でご頂いたご意見を踏まえて、1-1「地震・風水害対策」の現状と課題を加筆修正している。
	<p>議題(2) 伊丹市総合計画基本構想・基本計画（素案）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局には、各部会の意見を取り込んだ基本計画の素案を作成していただいた。議会特別委員会からも意見が出ており、これらを踏まえた修正案について説明していただきたい。
副会長	(資料 2 について説明)
事務局	・今回、初めて総合計画の全体像をお示ししていただいた。第 1 編から第 3 編で構成されており、第 1 編の基本構想ならびに第 2 編の基本計画は、議会の議決対象となっている。
副会長	・第 1 編は、将来像等、まだ決まっていない箇所がある。部会においてもご意見があったように、伊丹市全体のイメージが強調されるフレーズが必要と考える。第 3 編の「計画推進に向けて」は基本的な現状認識や社会潮流についてまとめられている。
	・これまで、第 2 編の基本計画の内容について各部会で議論を重ねていただいたが、全体を見渡した上で構成や見栄えについての意見、質問をいただきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・素案は、将来像が計画のはじめに記載されており斬新な計画書だと感じる。第 3 編が現況診断と位置付けられているが、内容が少し不十分と感じる。地理的条件、人口や財政の見通し、市民意識調査やワークショップの結果、社会潮流、第 5 次総合計画の総括など、これらを踏まえた現状分析を行うと、将来像も見えてくるのではないか。 ・3-7「持続可能な開発目標（SDGs）の推進」とあるが、伊丹市の取り組みとの関係が分かりにくい。SDGs に言及するのであれば、3-4「社会潮流」に加筆する程度が良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が手に取って見てもらえるよう、今まで議論した内容を可能な限りコンパクトにとりまとめ、簡潔な構成とした。第 5 次総合計画の総括や公共施設の問題は第 1 回並びに第 2 回の全体会で議論したが、これらの情報をどの程度記載すべきかご意見を頂きたい。 ・第 5 次総合計画は分量が多く、市民が手に取りにくいものとなっている。第 6 次総合計画は概要版やパンフレットを作成し、出前講座など多くの場面で説明資料として活用したい。 ・本編はホームページなどデジタル版で見られるようにしていきたい。どこまで記載するかは悩んだ点であり、皆様から意見をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画のはじめに施策が書かれている。施策を細かく書かず、重点戦略の形で掲載できないか。たとえば、南海トラフ地震が必ず来ることを念頭に、その為に行うべきことを記載することが考えられる。 ・現状と課題を最初に打ちだすことができれば、施策に細かいことを書く必要はない。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 編の前半に伊丹市が抱えている課題やすべきことをコンパクトにまとめて、それを踏まえて将来像や目指すべきまちの姿を書くということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の中に現状と課題が記載されているものの、現状は将来を含めた形にはなっていない。枠が決まっている中で現在実施していることを書いているように感じる。 ・計画にまとめても、すべてを実施できるわけではない。理想を多く記載して、細かい施策を減らした方がよいのではないか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 編における、各施策の現状と課題を簡素化すべきということではないと理解してよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおりである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・17 ページから 19 ページの SDGs についてはガイドラインに合わない掲載方法となっている。SDGs のアイコンは色の規程があり、白黒で掲載する場合には黒色で白抜きとする必要があったと記憶している。確認していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策のページにはまだ余白があるため、課題をはっきりと加筆してはいかがか。 ・ワークショップやアンケートの記録、第 1 回目ならびに第 2 回目の全体会で提示された現況データは入れた方が良いが、本体ではなく別の冊子にまとめ

副会長	<ul style="list-style-type: none"> でも良い。そうすると、本体が分厚くならず、読みやすくなる。 未定稿となっている将来像の部分は 2 段構えとし、前段は伊丹の良さや特性を簡単に数行で記載し、それを受けた将来像を書いてはどうか。 これまで審議会で使用した資料やデータを、第 3 編の後に資料編として設けるということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 別冊として設けた方が良い。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 3-3「伊丹のまちの特性」という項目はあるが、特性を説明する内容を入れた上で将来像を記載してはどうかという提案を頂いた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料 2 について、素案と別冊の関係が分かりにくい。 コンパクトな計画にする上で、SDGs について複数ページ設けなくてもよいのではないか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の資料の体裁として別冊にしているのであって、資料 2 はひとつの冊子となる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 2-1「施策の体系」で示されたあと、別冊でまとめられている基本計画が掲載され、2-2「施策間の関係性」を示す形となる。次回の審議会を確認していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料 1 で 5-6「水道・下水道」が抜けているが、これは議論されていないのか掲載を省略したのか、どちらか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 部会において大綱 5 を議論した際に、特記する事項がなかった施策である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 下水道の浄化率については大きな転換期を迎えており、兵庫県は浄化のレベルを下げる判断をしている。伊丹市は従来通りの浄化を継続するとのことだが、この点についての議論は非常に重要だ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた意見は本日の記録として残すとともに、資料を修正する。 資料編に記載する事項は再度内部で検討する。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回審議会から使用してきたデータや、第 5 次総合計画の総括を、計画本体の補足資料としてどのように示すのかを検討いただき、次回の審議会では原案を示していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 近隣市との関係や連携、協力体制についての記載が少なく、1-1「地震・風水害対策」以外で言及がない。伊丹市に阪神県民局が設けられると聞いているが、このような広域行政についての記載は行政機能の項目へ入れる必要は無いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 3-9「国・県および他の都市との連携」に考え方を記載している。救急搬送など、各事業で連携しているものについては今後の取組の方向性へ記載する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 伊丹市は阪神間、兵庫県、全国的といずれの場面でも対外的な影響は存在する。保健や福祉は広域行政で行うべきもので、近隣市や県との連携について言及するべきだ。 今後、伊丹市だけが持続的発展をしていくというわけではなく、連携は必要になってくる。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 加筆するとすれば、どこに書くべきか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 6-3「行財政運営」で加筆することになる。阪神北圏域で取り組むものや兵庫

	<p>県レベルで取り組むものについては加筆できる余地があると思われるので、検討する。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神地域の県民局が北と南で分かれてから、伊丹市は北県民局の市町との連携が増えた。社会福祉協議会は引き続き阪神間ならびに兵庫県の社会福祉協議会と連携しながら取り組んでおり、他都市や県外の自治体との関係も大切にしている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この点についてはしっかりと明記したほうが良い。 ・個別事業では日本遺産の認定申請、病院事業、救急の搬送体制、ごみ収集、し尿処理、空港事業など多くのことを連携している。書きぶりについては検討する。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT も市単独でできることではなく、連携が必要だ。公共施設の利活用も市域をまたぐことが考えられるので、書きぶりを検討していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第3編の「計画推進に向けて」とはどのような意味か。中身は伊丹市の現状や課題について書かれているが、計画を推進していくために取り組むことが書いてあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第3編は、第1編と第2編に取り組むにあたってベースになっているものが書かれている。通常の計画では前段に記載されているものだが、そうすると本編にたどり着くまでのボリュームが大きくなってしまっているので今回は結論を最初にしていく。 ・第3編のタイトルがこのままで良いかは検討する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を考えると、前段へ設けた方が良い。タイトルと中身が合っていない印象を受ける。 ・タイトルの見直しを含めて検討していただきたい。
副会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第3編を計画の最初へ移動することは考えていないのか。 ・検討する。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が手に取ってもらえる総合計画とするためにコンパクトにするとのことだが、審議会で出た意見をすべて盛り込もうとすれば分厚くなり、乖離する。 ・市民に広く知ってもらうためのツールと総合計画の本体は別物ではないか。市民に広く読んでもらうのであれば、結論にたどり着かないようなものを作っても意味がない。 ・例えば、子育てのことにに関して当該部分のみをまとめたものを子育て世代が集まる場所へ設置することなど考えられる。安全、安心、医療の部分でも同じことが言える。 ・計画で市民力の活用がうたわれているが、人のために何かをしようという気概を持っている人はいる。ただし、活動している中で何かあったときの責任の所在は課題であり、しっかりと認識する必要がある。 ・PTA の加入が減少傾向にあると記載されているが、実際に PTA 加入の意思表示を確認している学校は少ない。これらの事象についての取り組み姿勢について記載すると、それだけで安心につながる。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を読む市民に対してのメッセージ性が必要ということか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を手にとって読む人は少ない。広く計画を認知させるために、実際の計画とは異なる形で、広報紙に載せる必要がある。また、公共施設に置かれているフライヤーも有効だ。計画を読みたい人向けに、冊子を読むことができる場所の提供やインターネットでの閲覧も求められる。
副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、どのような形で伝えていくかは市で検討していただきたい。 ・来年度の広報で、市民の協力のもとで総合計画が完成したことを周知したい。計画全編を手にとる人は少ないので、市民に手にとってもらえるように概要版を作成する。 ・第5次総合計画の総括をベースにして、計画の現状と課題が書かれている。審議会が出た意見やアンケートなどを資料編として別立てで分けて示すことを検討する。 ・全ての事務事業の取り組み方を記載することはできないが、審議会が出た意見は実施計画につながるように位置付けていく。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野で活動されている人の意見として、担い手づくりやネットワーク構築の危機感があった。熱心な人任せにせず、主導権を握っている人や団体以外の市民もまちづくりについて責任を共有する必要がある。このことを文章にすると、どうしてもその熱い思いが無くなってしまう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画は伊丹市の人口が増加傾向から人口減少に至る過渡期の計画だと考えるので、将来のことを展望する項目があっても良い。 ・例えば、自助、共助の割合を増やして行政運営をスリム化することが挙げられる。災害時の食糧備蓄についてはその一例だ。 ・市の組織として、期間を限定して研究機関を設けてはどうか。昭和40年代後半に出された「成長の限界」レポートや、かつて存在した伊丹都市政策研究所のような組織を期間限定で設置し、若手を集めて研究や発表、広報、周知を行ってはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが総合計画に触れるきっかけとして、総合計画のパンフレット作成には賛成だ。 ・冊子の本編を読む際に冊子を取りに行くというのは手間である。今はQRコードが普及しているため、アクセスして見ることができる仕組みを整えてはどうか。 ・今は18歳から選挙権があるため、16、17歳ごろから見せることができるキャッチーなスタイルの読みやすいパンフレットがあればよい。
副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本編を充実させることも大切だが、広報も重要だ。 ・高校生以下になると計画の本編を読むことが難しく、伊丹や地域のことを考えて理解できるのは中学生程度だと思われる。計画の中学生版を市内で作成できれば良いが、引き続き検討を進める。より広く市民に理解していただき、周知することを徹底する。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生でも、行政のイメージは住民票の手続きくらいと言っている。検討していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3-1「総合計画の位置づけ」は前段に記載するべきだ。1-1「計画策定の趣旨」

副会長 委員	<p>と一緒にして、コンパクトにできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長が最初に述べられたように、総合計画策定の想いや、他市とは異なり結論を最初に掲載する旨を記載してはいかがか。 ・現在、計画には指標を入れることが一般的になっているが、それを盛り込まない理由について、言及しても良いのではないか。 ・3-2「参画と協働のまちづくりの推進」は、1-5「政策大綱」の総論として記載してはいかがか。 ・部会での議論の内容を資料編に盛り込んでいただきたい。 ・子どもは純粋に自分の思っていることを口に出すことができる。高齢者や環境など、伊丹市を取り巻く問題について、市の取り組み姿勢を、理想を含めて計画に記していただきたい。
事務局 副会長	<p>議題(3) 伊丹創生総合戦略の総合計画への統合 (資料3について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の総合戦略、地方創生の流れを受けて、伊丹市としても総合戦略を策定している。引き続き策定を進めるにあたって、総合計画と一体化して進めるということをご説明いただいた。 ・本日の議題はこれにてすべて終了した。活発なご意見とご質問を頂き、感謝申し上げます。
事務局	<p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたりご意見を頂き感謝申し上げます。 ・次回の審議会資料として、資料編の整理を行う。また、これまで議論してきた内容として自然災害をはじめとする安全対策、地域の担い手、子どもの人づくり、先進技術などについても表現を工夫する。 ・課題が明確ではないという意見も本日頂いた。内部でも混在している課題などを精査して、引き続き検討していく。 ・人口推計の確定に向けてただいま精査中なので、次回の審議会で報告させていただく。 ・次回会議は、2月10日を予定していたが、本日のご意見も含めて資料を修正する時間をいただくため、延期させていただいてよろしいか。 ・3月27日に開催する審議会で本日お示ししている基本構想ならびに基本計画をパブリックコメント用に整理したものを提示する。併せて、第6次総合計画の進捗管理についても議論をお願いする。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会は3月27日というご提案があったがいかがか。それまでにお気づきの点等があれば随時事務局へご意見を申し上げていただきたい。
副会長	<p>(異議なしの声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次回審議会は3月27日とさせていただく。本日の審議会はこれにて終了する。 <p style="text-align: right;">(以 上)</p>